

8/3号付

ガソリン15年ぶり高値

値上がり11週連続 全国平均176円70銭

経済産業省が二日発表した七月三十一日時点のレギュラーガソリン一リットル当たりの全国平均小売価格は、前週調査から一円九十銭高い百七十六円七十銭だった。値上がりは十一週連続で、二〇〇八年八月以来約十五年ぶりの高値。政府が価格抑制のための補助を段階的に縮小していることが響いた。補助が予定通り九月末に終了すれば家計負担が一段と増すことが見込まれることから、延長を求める声が強まりそうだ。――関連①

産油国が追加減産により、原油相場の下支えに動いていることも影響した。ロシアがウクライナに侵攻し、原油相場が上昇した昨年以降の最高値である百七十五円二十銭も上回った。調査した石油情報センターの担当者、原油相場上昇の影響で「来週も値上がり予想する」と述べた。

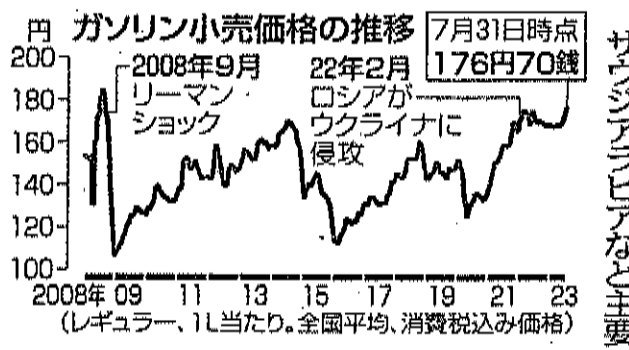
七月三十一日時点のレギュラーガソリン価格に対して八円十銭の抑制効果があったと説明している。補助は六月以降、段階的に縮小して九月末に終了予定。八月三日からの補助金額は一リットル当たり九円十銭となる。

ハイオクガソリンは全国平均で一円九十銭高い百八十七円五十銭だった。軽油は一円九十銭高い百五十六円三十銭。灯油は十八リットル当たり二十三円上昇し、二千九十六円だった。いずれも十一週連続の値上がりとなった。

比較可能な一九九〇年以降のレギュラーガソリンの最高値は、〇八年八月に付けた百八十五円十銭。当時は中国による石油消費の増加のほか、投機資金が原油市場に大量流入したことで、ガソリン価格の高騰につながった。

今年七月三十一日時点の都道府県別のレギュラーガソリンは、四十六都道府県で値上がりし、佐賀県のみ値下がりした。最も高いのは長野県の百八十六円四十二銭で、山形県の百八十二円九十銭が続いた。岩手県が百七十一円九十銭で最も安かった。

ガソリン価格抑制などの物価高対策を巡っては、与党内から補助の延長に言及する声が出ている。



サウジアラビアなど主要

経産省は補助金により、